

業務連絡

2020年12月28日
JR東海労新幹線関西地本
編集 業務部 No.13

2020年12月22日、新大阪日之出会議室において「申」第17号について、会社は団体交渉の開催を拒否し、会社側幹事から口頭による回答がありました。

以下、組合の申し入れと会社回答。

「申」第6号（「新幹線ホームの新型車いす用スロープの不具合改善」に関する申し入れ）の回答に対する申し入れ

10月19日、「申」6号に対する回答を受けた。

しかし、会社は「現在使用しているスロープに安全上問題ない」と車いすを利用するお客様の安全確保を放棄するような回答をしている。

また、スロープの不具合についても、私たちが申し入れた不具合の箇所とは違う箇所について回答しており、内容についても理解しがたいものになっている。

以上、「申」6号に対する回答は到底認められるものではない。

1. 「申」第6号で申し入れたスロープの不具合（スロープとホームの接する部分の段差）に対する会社の見解を明らかにすること。また、会社、サービック、メーカー合同で実施している不具合解消に向けた対策（検証）を、進捗状況も含めて時系列で明らかにすること。

【会社回答】旧品に比べてホーム側端部の角度があるのは事実であるが、お客様が利用される車イスの大型化・重量化に対応し耐久性を高め安全性をさらに向上させるべく必要な補強措置を施したため厚みが増したものであり、不具合であるとは考えていない。

設置箇所により段差が生じる場合は、真心サービスブックに記載されている「移動（段差越え）」の通り対応を行うことで問題なく対応出来る。以上のことから、新型渡り板に安全上の問題はない。なお、耐久性の維持とスムーズな乗降の両立を前提に、ホーム側端部の改良なども検討項目に上がってはいるが、現時点で変更する予定はない。

2. 不具合に対する回答で「係員の使用感として、設置時に渡り板とホームの間に渡り板の取手が介在することにより、ガタつきが生じる場合がある」「取手の厚みを無くす加工を行いすでに解消している」とあるが、具体的なイメージがわからず理解することができない。まず、取手とは何処を指すのか。取手が渡り板とホームの間どのように介在するのか。ガタつきとはどういうものか。ガタつきと取手の厚みの関係はどのようなものなのか。以上、理解できるように説明すること。

【会社回答】取手とは、渡り板を持ち運ぶために渡り板本体に取り付けてある黒い布製のものを指す。渡り板を設置した際に背面に取り付けてある取手がホームとの間に位置することとなるが、ホームと車両の間の高低差が小さい場合には、それにより渡り板ホーム側端部とホームの間に僅かに隙間ができ、ガタつきが生じる場合があった。これについて、取手の縫製を切り開くことで取手の厚みをなくすことによりガタつきを解消した。

3. 現時点においてもスロープとホームの接する部分の段差は解消されておらず、乗降時に車いすが転倒する恐れがあるにもかかわらず、「現在使用している渡り板に安全上の問題がない」と回答した根拠を明らかにすること。

【会社回答】 1項と同じ。

4. 現時点においてもスロープの不具合（スロープとホームの接する部分の段差）は解消されていない。早急に不具合解消に向けて対策をとること。

【会社回答】 1項と同じ。

若干のやりとり

組合：前回の回答で取手のガタつきのがわからないと現場組合員が言っている。

会社：ホームと車両の間の高低差が小さい場合にガタつきが発生していたことで、これは米原、京都駅で事象が発生していたもので新大阪駅では無かったことである。

組合：端部の段差が問題であると指摘している。会社も段差について真心サービスブックの段差越えということで認識しているのではないのか。

会社：必要な教育は行っている。段差越えと言うことで取扱いを定めているので、その取扱いをやって頂ければ問題はない。

組合：車イスの付き添い、一般の介助者等が押した際に前輪が段差に当たり転倒する可能性も考えられる。

会社：必要のご案内は行っている。現時点での状況が安全上問題あるとは考えていない。

組合：この段差で事故が起きる可能性があるかと再三指摘しているにもかかわらず改善することなく、この段差で問題が発生した場合は現場社員への責任追及は許さない。会社が全責任を負うこと。

会社：仮定の質問について答えられないが、何か発生した場合は、その時の状況を確認して会社として適切に判断していく。一律に責任があるないことではない。

組合：回答でホーム側端部の改良なども検討項目に上がっていると回答している。問題があるから検討項目に上がっているのではないのか。

会社：安全上問題はないがお客様により快適にご利用頂くために何が出来るのか考えているということ。本件に限らずお客様へのサービス、より良い対応は考えて勉強しているところである。その一つの検討項目としてホーム側端部の改良は上がっている。しかし現時点で変更する考えはない。

組合：検討して改良すること。

以上